

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	秦野養護学校高等部校舎棟	階数	地上2F
建設地	神奈川県秦野市落合500	構造	RC造
用途地域	市街化調整区域、防火指定なし	平均居住人員	99 人
地域区分	5地域	年間使用時間	2,400 時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年1月 予定	評価の実施日	2017年8月8日
敷地面積	2,900 m ²	作成者	㈱小林建築事務所
建築面積	691 m ²	確認日	2017年8月8日
延床面積	1,178 m ²	確認者	㈱小林建築事務所



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5 ★★★★★☆

S: ★★★★★★ A: ★★★★★☆ B: ★★★★★☆ B': ★★★★★☆ C: ★★★★★☆

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

① 参照値: 46 (kg-CO₂/年・m²)

② 建築物の取組み: 46 (kg-CO₂/年・m²)

③ 上記+②以外のオンサイト手法: 46 (kg-CO₂/年・m²)

④ 上記+オフサイト手法: 46 (kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.3

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.3

音環境	3.0
温熱環境	2.8
光・視環境	3.8
空気質環境	4.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.5

機能性	4.0
耐用性・信頼性	2.9
対応性・更新性	3.5

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 3.0

生物環境	3.0
まちなみ・景観	3.0
地域性・アメニティ	3.0

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.6

建物外皮の熱負荷	5.0
自然エネルギー	N.A.
設備システム効率化効率の運用	3.6
	2.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.3

水資源保護	3.4
非再生材料の使用削減	3.2
汚染物質回避	3.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.3

地球温暖化への配慮	3.4
地域環境への配慮	3.4
周辺環境への配慮	3.1

3 設計上の配慮事項		その他
総合 低層階とし、威圧感を抑制、落ち着いた色彩の仕上により周辺環境・景観に配慮した外装計画。市の特性を活かした地場産材を活用し、木の温もりを感じることが出来る内装計画。		
Q1 室内環境 高断熱材の使用により外皮性能を上げて、温熱環境に配慮。評価の高い昼光率を目標とし、カーテン・庇を採用するなど、光・視環境に配慮。また、F☆☆☆☆☆建材を全面的に採用し、全館禁煙とするなど、空気質環境にも十分配慮。	Q2 サービス性能 天井高を高くするなど心理性・快適性に配慮。階高を高く設定し、空間にゆとりをもたせている。適切にバイパススペースを設けるなど、長寿命化に向けて設備のメンテナンス及び更新性に配慮した計画。	
LR1 エネルギー 高断熱材の使用により外皮性能を上げて、温熱環境に配慮。LED照明を採用するなど、設備システムの高効率化に配慮。	LR2 資源・マテリアル 高性能のノンフロン断熱材を採用している。自動水栓や、節水型便器などの省水型機器を用いるなど、水資源を保護している。稼働間仕切りを採用するなど、部材の再利用可能性向上への取り組みをしている。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出量を80%以上100%未満とするなど、地球温暖化へ配慮。普通教室の自然採光、自然通風、眺望に配慮した配置平面計画。広告物照明を行わないなど周辺環境へ配慮。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される